

有床義歯咀嚼機能検査

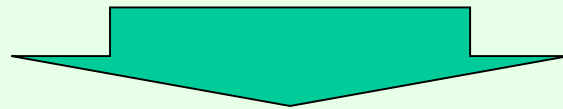
- 適応症・算定要件
- 咀嚼運動検査の手順
- 咀嚼能力検査の手順
- 咬合圧検査の手順
- 咀嚼運動・咀嚼能力・咬合圧の評価

有床義歯咀嚼機能検査

咀嚼機能検査が必要な理由

健康やQOLに関する国民の意識の向上に伴い、**治療効果を客観的に評価し、患者に呈示する**医療が必要

歯科医療の目的：**咀嚼機能の回復と維持**



咀嚼機能検査による
障害の程度、回復・維持の程度の
評価、呈示

有床義歯咀嚼機能検査

下顎運動検査



[下顎運動検査装置]

咀嚼能力検査



[咀嚼能力検査キット]

咬合圧検査



[咬合力分析システム]

有床義歯咀嚼機能検査一対象患者

改定前

【1】総義歯、9歯以上の局部義歯
かつ当該局部義歯以外は、
臼歯部で垂直的咬合関係を
有しない

改定後

- 【1】総義歯、9歯以上の局部義歯
かつ当該局部義歯以外は、
臼歯部で垂直的咬合関係を
有しない
- 【2】左右第二大臼歯を含む臼歯
が4歯以上欠損している場合
(第3大臼歯は歯数に含めない)

有床義歯咀嚼機能検査一点数

改定前

有床義歯咀嚼機能検査

- 【1】 下顎運動測定と 480点
咀嚼能力測定を
併せて行う場合
- 【2】 咀嚼能力測定 100点
のみを行う場合

※ 【2】については、新製有床義歯装着日より前に【1】を算定した患者についてのみ算定できる

改定後

有床義歯咀嚼機能検査1

- 【1】 下顎運動測定と 560点
咀嚼能力測定を
併せて行う場合
- 【2】 咀嚼能力測定 140点
のみを行う場合

有床義歯咀嚼機能検査2

- 【1】 下顎運動測定と 550点
咬合圧測定を
併せて行う場合
- 【2】 咬合圧測定のみ 130点
を行う場合

咀嚼運動検査の手順

MVT(モーションビジットレーナー)による記録

- ・下顎切歯点あるいはオトガイ部にLEDを付着
- ・頭部にヘッドマウントカメラを装着し、カメラとLEDとの距離を確認
- ・LEDがOFFの状態での測定環境を確認
- ・LEDをONにし、記録状態を確認
- ・記録を開始し、被験者に咀嚼開始を指示
- ・記録終了後、ファイル名を入力、データを保存



シーネに常温重合レジンを盛り、歯列を乾燥させ、シーネを下顎切歯部に装着



皮膚用のLEDの裏側に両面テープを付け、オトガイ部に装着



頭部にヘッドマウントカメラを装着し、カメラの高さ、カメラとLEDとの距離(15 cm)を調節



下顎切歯点にLEDを付着した場合



オトガイ部にLEDを付着した場合

有床義歯 咀嚼機能検査システム

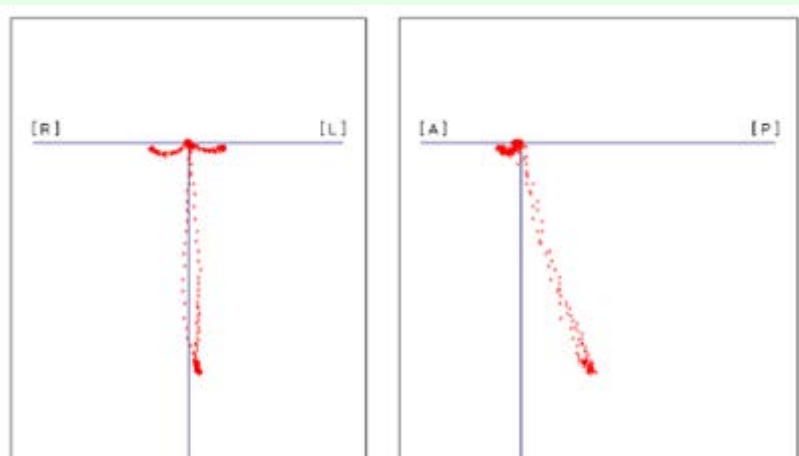


プログラムを起動し、LEDがOFFの
状態で測定環境を確認

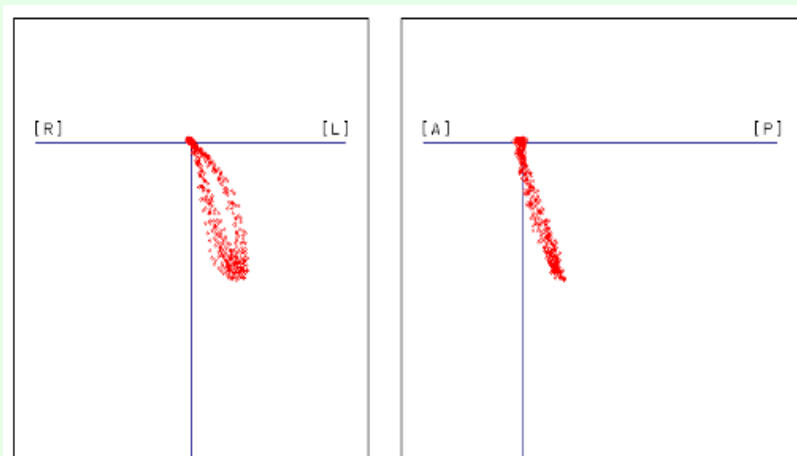
測定環境確認完了



LEDをONにしてモニタリング

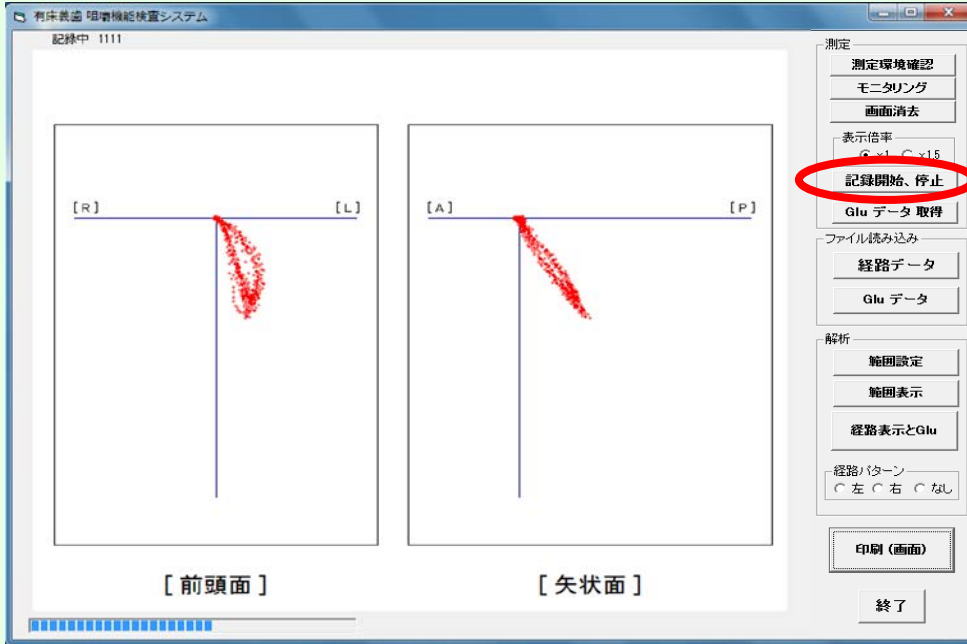


開閉口、左右側方運動

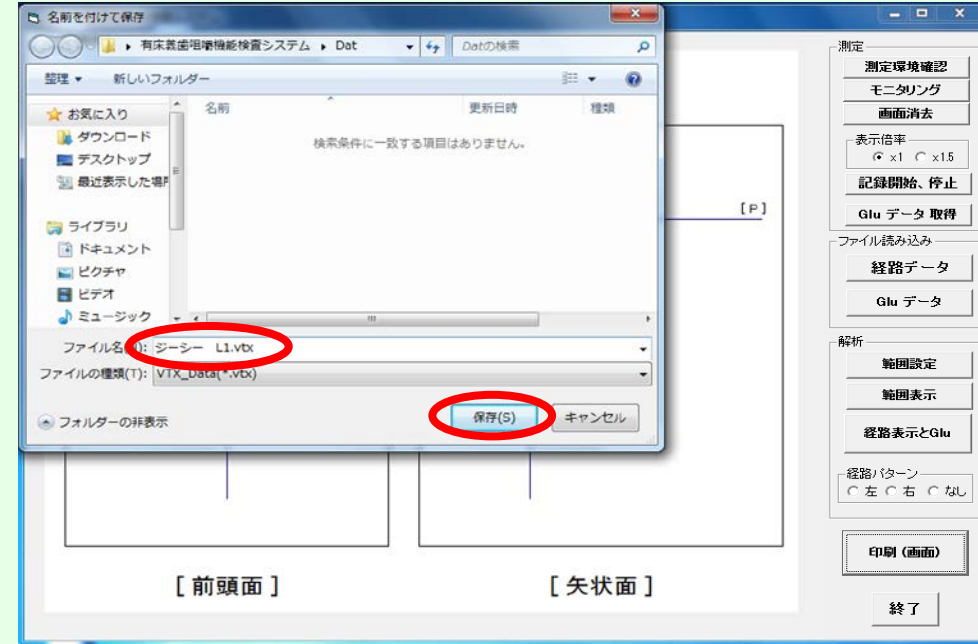


咀嚼(例では左咀嚼)

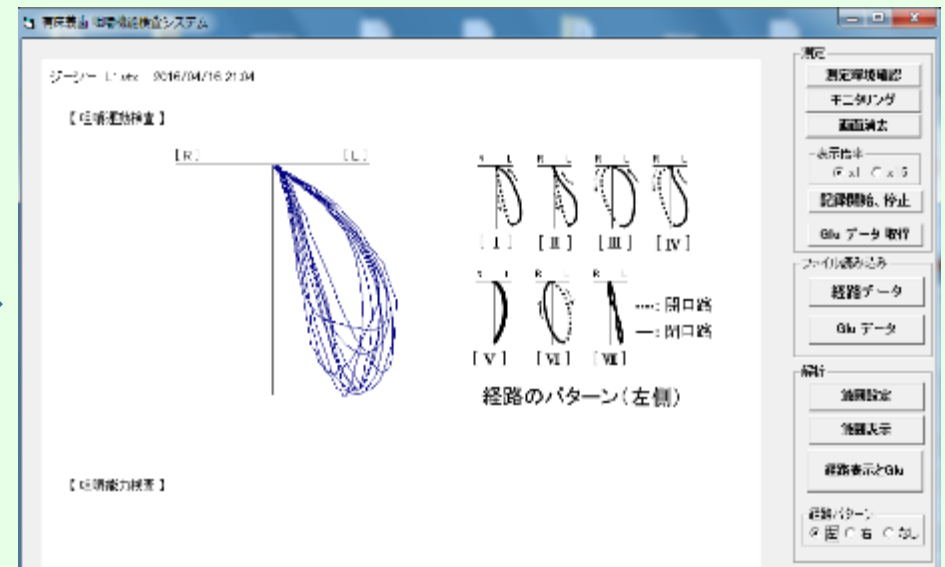
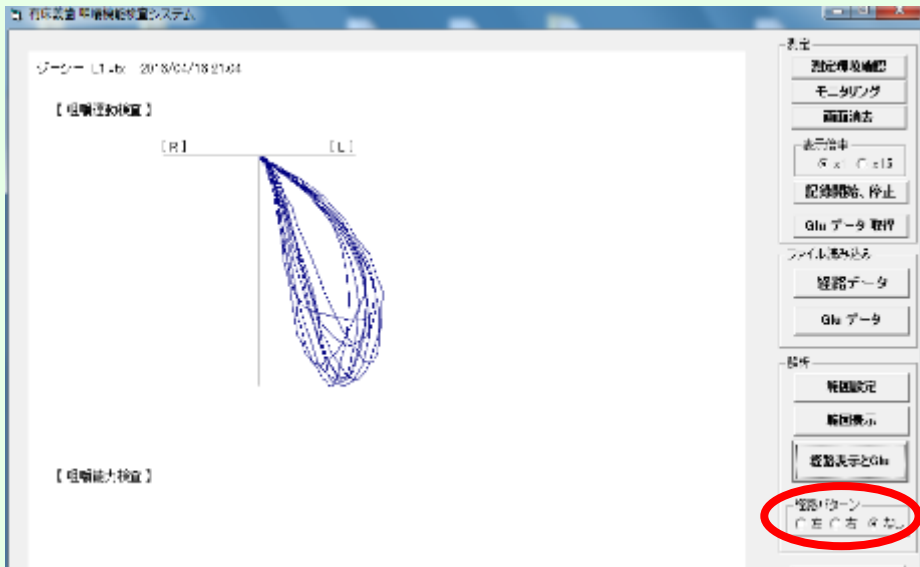
記録状態を確認



記録開始し、被験者に咀嚼開始を指示



記録終了後、ファイル名を入力し、保存

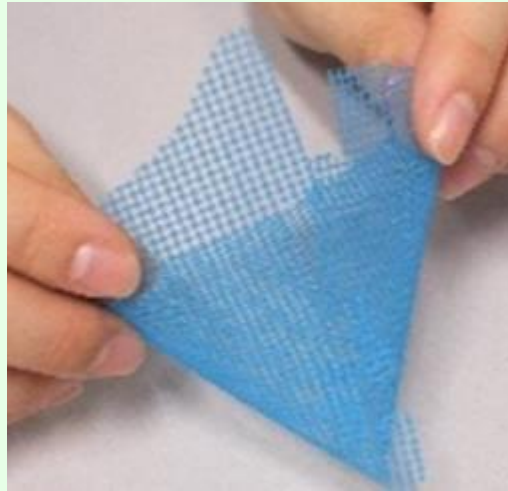


選択範囲内の運動経路表示により、パターンを分類(I ~ VII)、評価

咀嚼能力検査の手順



グミゼリーを
1個用意



篩を準備



10 mlの水をコップに用意



- グミゼリーは常温での保管もよいが、冷蔵庫での保管が望ましい(記録前に常温に戻しておく)
- 篩のつなぎ目に遊びがないことを確認する
- 検査の手順を説明する
- 被験食品を自由に咀嚼してもらい、被験食品の咀嚼に慣れさせる。この際、左右側のどちらが咬みやすいかを尋ね、主咀嚼側の選定をしておく



グミゼリーを主咀嚼側
で20秒間咀嚼させる



咀嚼後、水10 mlを口に含み、グミと
一緒に篩に吐き出してもらう



コップから篩を
除去



センサーに測定
用チップを挿入



コップを軽く攪拌して濾液をブラシ
で採取し、チップに点着

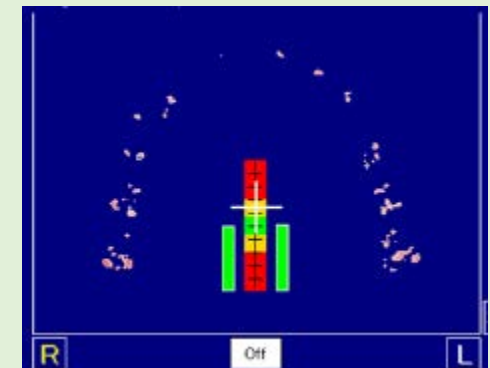
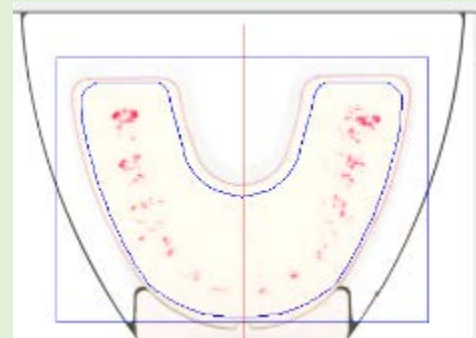


咬合圧検査の手順



適切なサイズ(S,M,L)を選択し、歯列全体がフィルムに収まるようにデンタルプレスケールⅡを口腔内へ挿入後、約3秒間噛みしめてもらう

プレスケールについての唾液をやさしくふき取り、消毒用エタノールなどで清拭消毒する



位置決めテンプレートとプレスケールをスキャナにセットし、アイコンをクリックし、読み込む

不要な外形をトリミングし、咬んで発色した部位を抽出する

咬合力などの解析結果が表示される

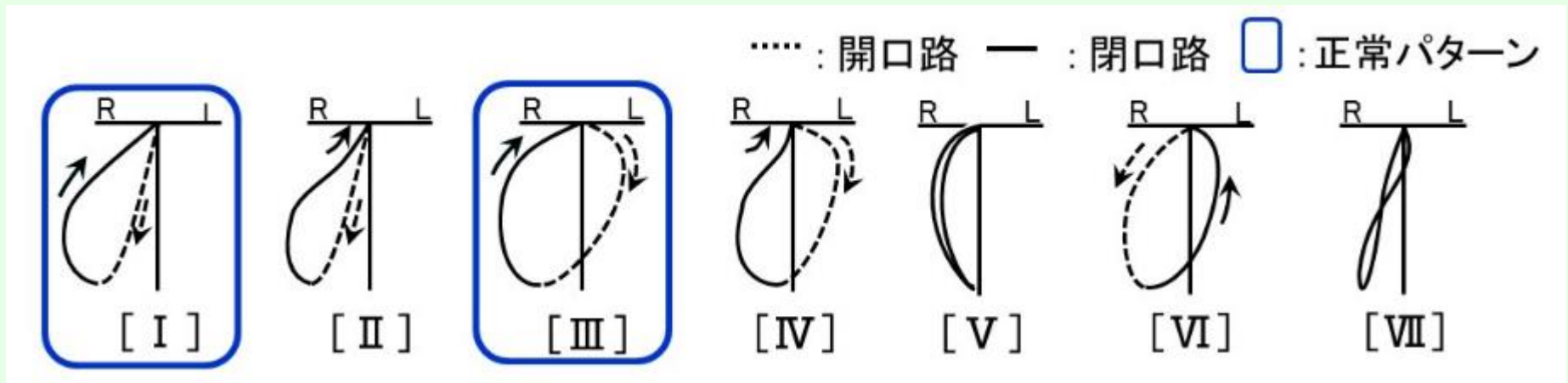
咀嚼運動の評価

経路のパターン分類の評価

パターン I と III を咀嚼機能が健常で咬合に問題がない、
パターン I と III 以外を問題があると評価する

咀嚼運動の安定性の評価

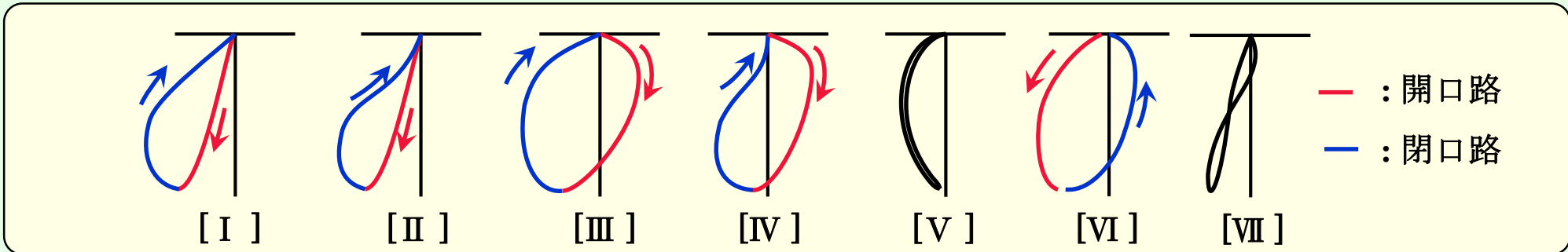
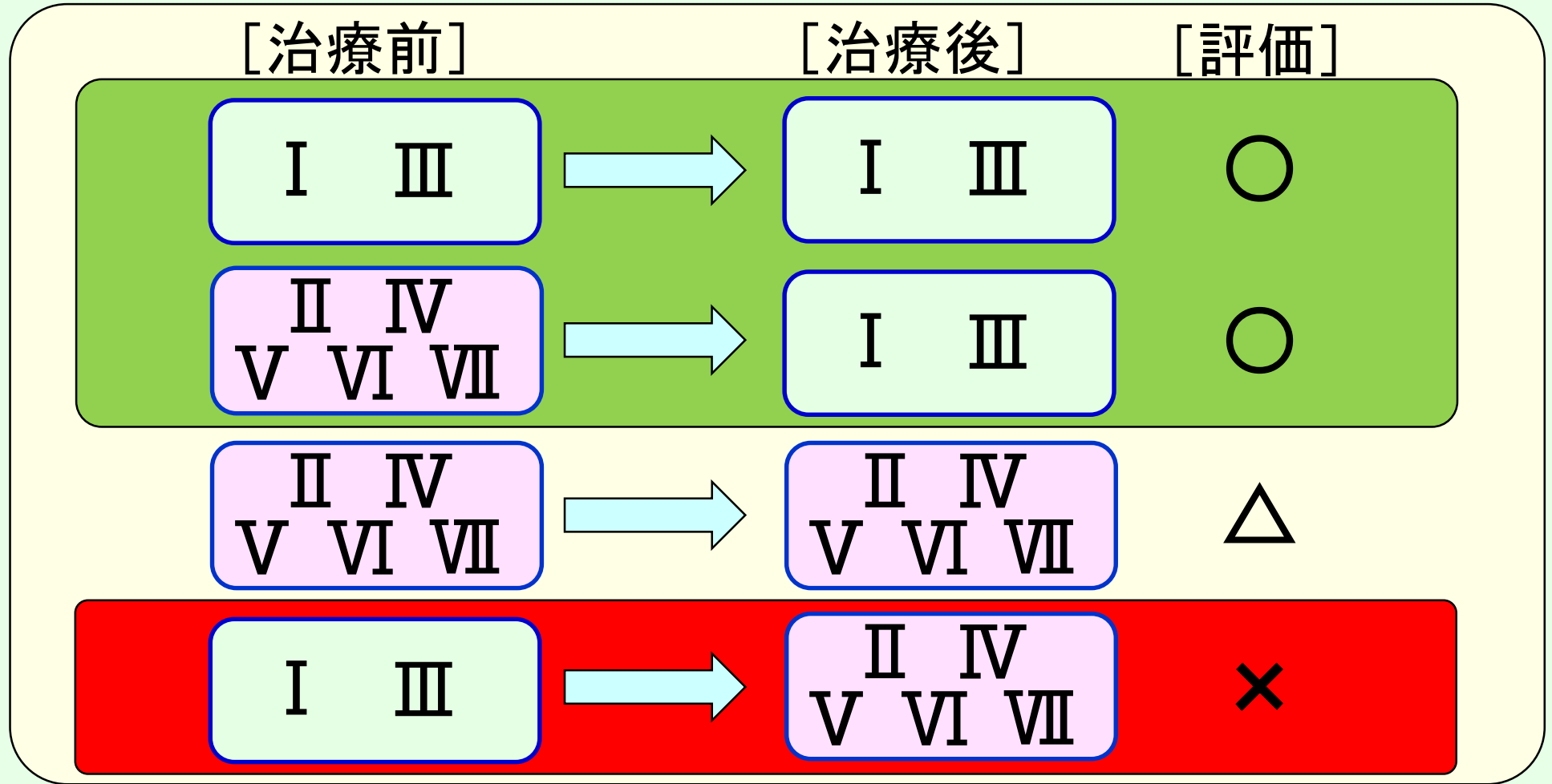
咀嚼機能が改善すると咀嚼運動が安定する



咀嚼能力の評価

義歯に満足している有床義歯装着者のグルコースの
溶出量は100 mg/dL以上であることが示されている。

経路のパターンの評価



咀嚼能力・咬合圧の評価

[治療前] [治療後] [評価]

A

B

A

<

B

○

A

=

B

△

A

>

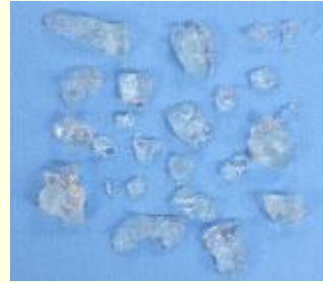
B

×

咀嚼能力

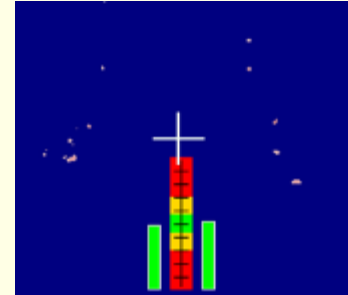


61 mg/dL
治療前

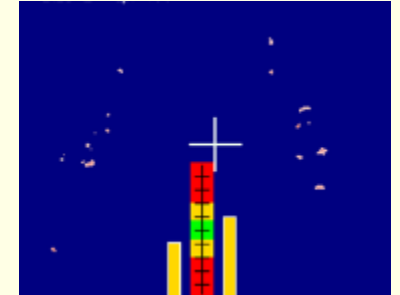


142 mg/dL
治療後

咬合圧



246 N
治療前



378 N
治療後